

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 16日から17日は、低気圧が発達しながら日本の南岸付近から千島近海に進む。前線が沖縄・奄美付近を通過して日本の南を東へ進む。
- 18日から19日は、低気圧が日本付近を通過して日本の東に進む。大陸の高気圧が東シナ海から日本の南に張り出す。
- 20日は、低気圧は千島の東に進み、高気圧が東シナ海から日本の南に張り出す。

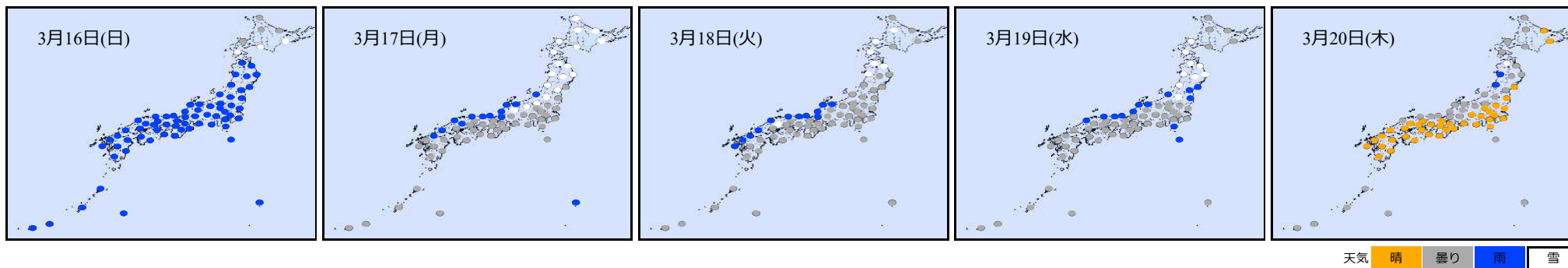
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 16日から17日は、日本の南岸付近を発達しながら進む低気圧の影響で、日本付近は荒れた天気となる所がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

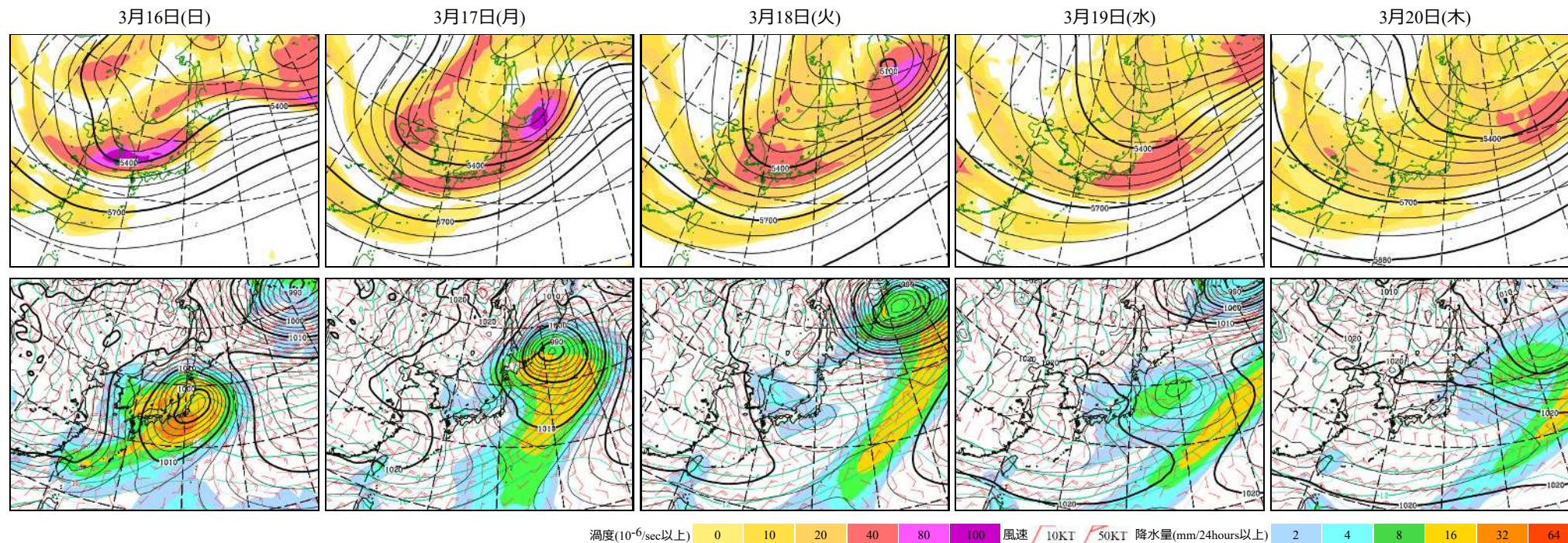
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

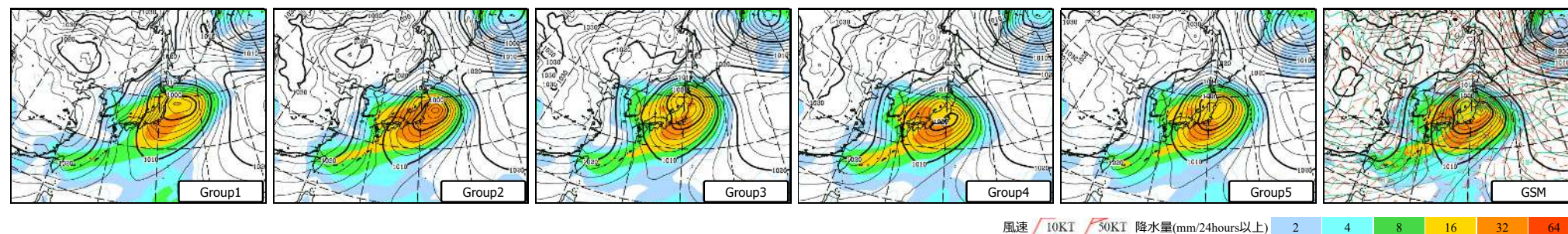


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側と沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、16日は雨の降る所が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月16日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、16日から17日にかけて日本付近を進むトラフはやや深まった。日本の南岸から千島近海へと進む低気圧は昨日資料よりも発達する予想となった。また、18日から19日に日本付近を進むトラフが深まり、関東南岸付近から三陸沖に進む低気圧が明瞭になった。
- 16日から17日に日本の南岸から千島近海へと進む低気圧は昨日資料よりも発達するモデルが多い。18日から19日に日本付近を進むトラフは各モデルとも初期値変わりがみられるが、低気圧が発達しながら日本の南岸付近から三陸沖に進む予想については各モデルの予想は揃ってきている。
- スプレッドは縮小した日が多いが、期間後半は5400m特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。